

「藤園忌」俳句募集

児玉源太郎の遺徳を偲んで

日本の近代化を推進した明治の偉人、児玉源太郎のふるさと、周南市で有志が「児玉源太郎顕彰会」を2016年(平成28年)6月9日に設立しました。没後110年の節目に発足したこの顕彰会は、会報「藤園」やニュースレター「本丁通信」の発行をはじめ、2年目には児玉源太郎の命日7月24日を雅号にちなんで「藤園忌」と定めて茶会や俳句募集などの「藤園忌」行事を始めました。

今年で9回目を迎える「藤園忌」は、7月24日(木)に児玉神社で命日祭と菩提寺の興元寺で墓前供養を行います。6月から7月にかけては「藤園忌」に関わる俳句を募集します。昨年は102人から289句の応募がありました。児玉源太郎の功績を称え、その志を次世代へ継承する顕彰会の活動として第9回「藤園忌俳句」を下記の要領で募集します。

昨年(第8回)の特選句

海を向く夏帽一つ藤園忌

豊中市 戸川富士子

藤園忌二十歳の髭を剃り残す

山口市 石森甘蕉子

なつやすみずかんをもつてとうさんと

周南市 高村淳之介

児玉源太郎 プロフィール



児玉源太郎は1852年(嘉永5)徳山に生まれ、明治の陸軍軍人、政治家として活躍しました。

郷土への思いは強く、1903年(明治36)生家跡に私設の図書館「児玉文庫」を開設しました。ふるさとの教育文化の向上に役立てば

と人々にも開放、全国でも先駆けた取り組みはイギリスの新聞にも紹介されました。独自色のある運営も画期的で、「児玉文庫」は明治、大正、昭和と多くの人に親しまれ、郷土の教育文化に大きな役割を果たしました。

記

- 雑 詠 児玉源太郎に関すること、又は夏季雑詠。
- 選 者 坪内 稔典
(俳人・柿衛文庫理事長)
対馬 康子
(産経新聞俳壇選者・現代俳句協会副会長)
久行 保徳(「草炎」主宰)
- 募集期間 6月1日(日)～7月31日(木)
※当日消印有効

- 表 彰 ●特選(3点 賞状及び賞金)
●入選(10点 賞状及び記念品)
●佳作(20点 賞状及び記念品)

■ 応募方法

■ 投 句 料

※9月13日(土)の講演会で表彰、顕彰会「本丁通信」で発表。

一人につき俳句3句まで。
はがきにて、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、児玉源太郎顕彰会(下記)へ。

無料